



# まつかわ 議会だより

Matsukawa Town Council Newsletter



## がうちがえん! 中学生と 公民館活動

名子地区公民館の  
あらたな試み



**特集1** 自治会の現状とこれから P2

3月定例会 令和8年度当初予算…………… P4

**特集2** 育休退園を知っていますか? P7

3年前より名子地区公民館では、松川町中学生ボランティア体験事業(通称ニコボラ)で参加を募り、地区内外の子どもたちが公民館活動に参加しています。

YouTube  
松川町議会  
チャンネル

|| check! ||



# 【特集】今、過渡期にある自治会（前編）

近年、加入率の低下や役員の担い手不足、高齢化の進行、そして価値観の変化などにより、これまでの地縁による地域のつながりは、大きな転換期を迎えています。自治会の現状と課題について、改めて考えてみましょう。

## 自治会の活動と現状

自治会の成り立ちは、日本の地方自治制度の歩みと深く関わっています。

明治時代の地方制度整備や1888年の市制・町村制により、現在の自治体の原型が確立され、戦後には日本国憲法に「地方自治の本旨」が明記されるなど、自治体の自主性と民主性が強化されてきました。さらに地方自治法により制度や権限が体系化され、現在の仕組みが形づくられています。

こうした流れの中で、戦後、住民主体の団体として自治会も発展してきました。自治会は、地縁を基盤に地域に住む人々が協力し合い、安心して暮らせる環境を支える組織として、活動を続けてきました。共助の仕組みを担うとともに、行政のパートナーとして地域を支える役割を果たしています。

また、戦前から戦中にかけては「隣組」と呼ばれる地域単位の組織が存在し、防空や物資配給などを担う統制的な役割を果たしていました。戦後、こうした制度は廃止されましたが、地域で支え合う仕組みそのものは形を変えて受け継がれ、現在の自治会にも影響を残しています。

かつては、防災や清掃、地域行事など生活に密接な役割を地域で担っていたことから、自治会への参加は生活の一部でもありました。そのため、特に年配の世代にとっては「やって当たり前」と受け止められる存在として根付いてきました。しかし現在、こうした前提は大きく変化しつつあります。



### 1 担い手・組織の弱体化

**課題**

- 加入率低下
- 担い手不足
- 参加者の固定化
- 負担の偏り

**原因**

- 高齢化
- 人口減少

### 2 財政・運営基盤の不安定化

**課題**

- 資金減少
- 会費依存
- 不公平感
- 継続性の欠如

**原因**

- 加入者減少
- 補助金減少
- 物価高騰
- 任期が短い

### 3 社会環境と意識の変化

**課題**

- 関心低下
- 交流の減少
- 地域との関わりの希薄化
- 役割が見えにくい
- メリットを感じにくい

**原因**

- 共働きの増加
- ライフスタイルの変化
- 価値観の多様化
- 未加入でも困らない状況

# 自治会の課題

自治会を取り巻く課題は、単一の要因ではなく、人口構造や社会環境の変化、運営体制、住民意識など、複数の要素が重なり合って生じています。近年は人口減少や高齢化の進行、そしてコロナ禍も加わり地域活動の担い手が減少するとともに、生活様式の変化によって地域との関わり方も大きく変わってきました。また、加入を前提とした仕組みや従来の運営方法は、現在の社会状況との間にずれが生じつつあります。

さらに、財政面や住民意識の変化も影響し、自治会の役割や必要性が見えにくくなっていることも指摘されています。

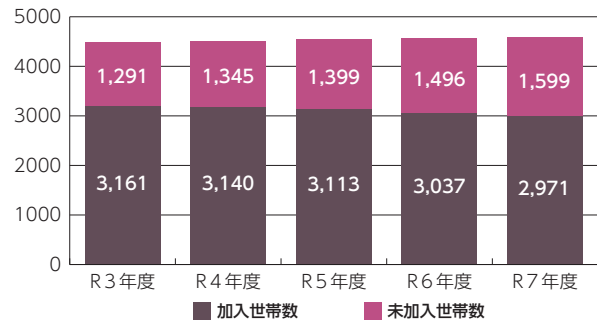


自治会による河川清掃

## ■地区別自治会加入率（入所施設などの数値は除く）

	令和3年度	令和7年度
名子区	64%	55%
上新井区	73%	67%
古町区	73%	68%
大島区	75%	69%
上片桐区	74%	70%
福与区	76%	72%
生東区	83%	83%
部奈区	86%	85%
町全体	71%	65%

## ■加入・未加入世帯数の推移



## 立場による意識のギャップ



このように自治会を取り巻く環境は大きく変化しており、地域のつながりを前提としたこれまでの仕組みは、今まさに見直しが求められています。また、松川町としても自治会などに対する支援のあり方を検討する動きがあります。

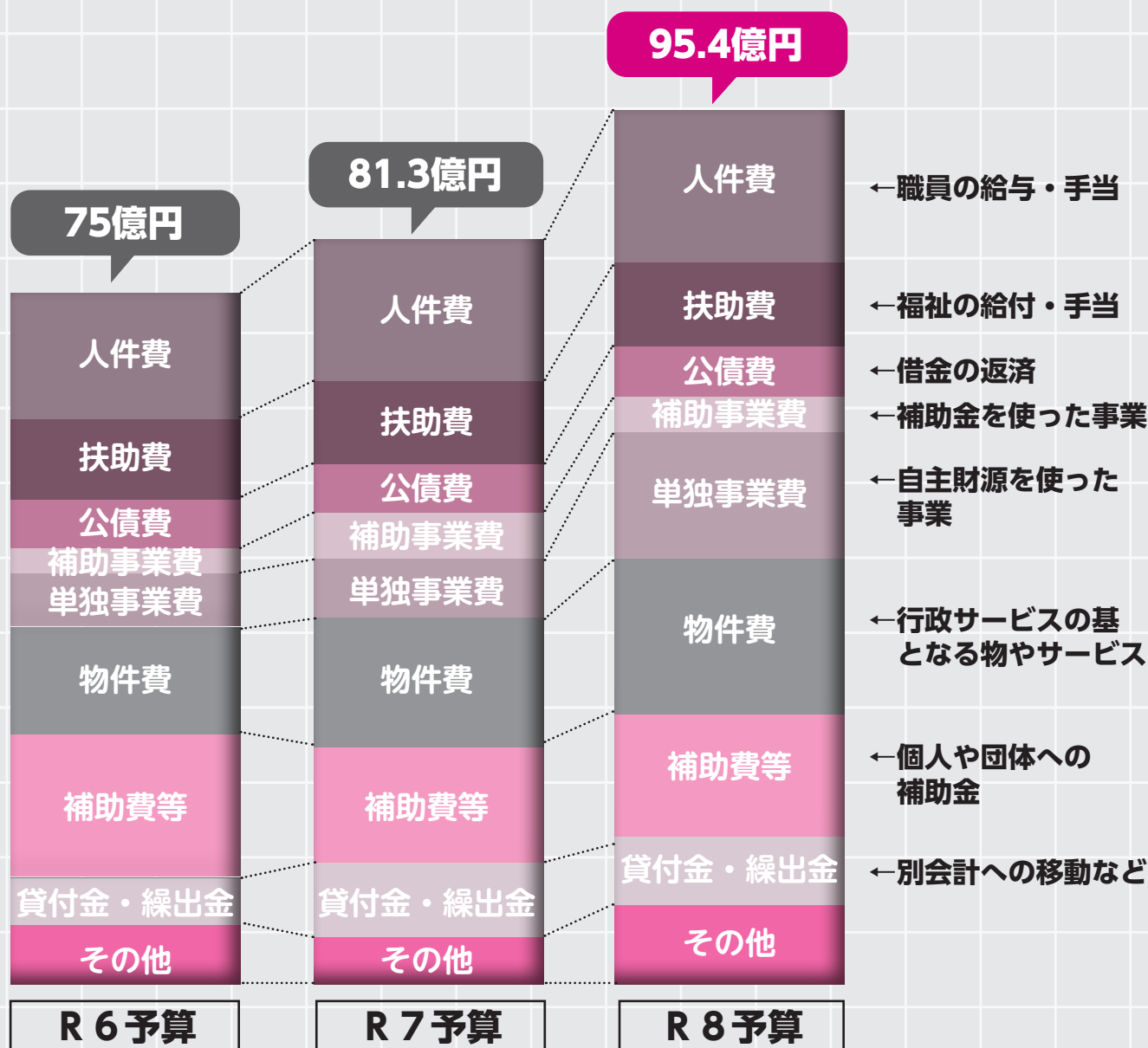
次回予告：自治会の新たな取り組みと目指す姿を通じて、地域との新しいつながり方を考えます。

令和8年度  
当初予算

# 一般会計 当初予算を可決

その他特別会計予算、公営企業会計予算も可決

令和8年度の一般会計予算案は95億4,000万円(前年度比17.3%)となり、過去最高額を更新。町制施行70周年という節目の年を迎え、「子育て」「シゴトづくり」「移住・定住」の3つの最重点施策を軸に未来への投資が始まった。議会としては事業の効果や方向性、未来の財政や町民の負担への影響など長期的な視点で判断が求められる。



性質別の歳出を比較すると人件費では保育園関連人員や英語教育を強化するためのALT増員などにより増額となる。単独事業費は+113%の増額だが、福与河原圃場整備事業や町道大草線、福与部奈線の道路改良などのインフラ整備であり、大部分は交付税措置となるため町の負担は大きくない。物件費及びその他においては町の貴重な財源となるふるさと納税額の伸長に伴う手数料などの増額と寄付金積立の増額となる。

# 北沢町政が進める三本柱

## 1 子育て

将来世代への投資を拡充



経済的負担の軽減と教育環境の充実により、安心して子育てできる環境を整える。

### 給食費無償化の継続

保育園から中学校までの給食費を全額補助し保護者の負担を年間約7万円～8万5千円軽減する。

### 英語教育の抜本的強化

ALTを2人から7人に増やし保育園から中学校まで一貫したグローバル人材育成を図る。

### 入学祝金の増額

令和9年度入学分より小学校3万円(1万円増)中学校4万円(2万円増)に引き上げる。

### 「こども誰でも通園制度」の開始

未就園児を1時間単位で預かる制度を導入し、育児負担の軽減と孤立予防を目指す。

## 2 シゴトづくり

産業活性化とインフラ整備



雇用の創出と地域経済の持続的な発展を目指す。

### 産業用地の整備検討

企業誘致や既存企業の規模拡大に向け、新たな用地整備の段階的な検討に着手する。

### アウトドア資源の活用

およりの森やオートキャンプ場などの一体的利用を促進するため、有識者による調査とまちづくりを推進する。

### 街路灯のLED化

省エネと維持管理費削減のため、上新井・上片桐地区の街路灯をLED化へ更新する。

## 3 移住・定住

受入体制と関係人口の創出



松川町が“選ばれる町”としての魅力を高め、移住定住を促進し人口減少に歯止めをかける。

### 移住促進住宅の稼働準備

改装中の旧国交省官舎を完成させ、令和9年度の本格稼働に向けた体制を整備する。

### 北小学校周辺の開発

住宅分譲地の確保と「旧上片桐専用側線」あと地の利活用に関する基本構想を策定する。

### デジタル住民の運用

NFTを活用した「デジタル住民」の運営により、新たな関係人口の獲得を目指す。



## 当初予算のポイント

1

保育体制の充実やALT増員、給食費無償化の継続など、子育て・教育環境の充実に重点的な予算が配分された。

2

ふるさと納税の伸長に伴い経費も増加。町の貴重な自主財源の確保と基金積立の面でも注目される。

3

道路改良や圃場整備など、地域の将来を支える基盤整備に重点投資する予算編成となった。

# 清流苑 令和8年度当初予算 賛成9、反対4で可決



## 浮き彫りとなった経営課題

審議では、経常収支マイナス約1.6億円の予算案に加え、休館日の増加による売上減少、人手不足への対応、閑散期の集客対策などが指摘されました。また、清流苑とまつかわの里(プール、屋内スポーツ施設、フォレストアドベンチャー)の会計区分が分かりにくいという透明性の課題も浮上しています。特に「町民福祉としての役割」と「観光・宿泊施設としての経営責任」をどう整理し両立させるかが、今後の大きな鍵となります。

## 町の改善策と今後の注視点



これに対し町側は、令和8年度中に経営改善計画を策定する方針を示しました。インターネット予約の促進やホームページによる集客強化、価格設定の見直し、運営体制の改善などを進める考えです。

議会からは、清流苑単体での収支明確化や一般会計支援の整理、資金繰りの見通しなど、計画の具体化を強く求めています。町民福祉の拠点としての役割を大切にしながらも、持続可能な経営に向けた実効性のある改善が行われるか、議会として引き続き厳格に検証していきます。

### 賛成 討論

赤字経営が続く、改善の見通しが不十分だと指摘は重く受け止めるべきであり、今後の経営改善は議会として厳しく注視していく必要がある。しかし、今回審議すべきは令和8年度の予算であり、必要な運営経費が適正であるか、地域に必要な機能を維持できる内容かという観点から判断すべきである。清流苑は、単なる宿泊施設ではなく、観光振興や交流人口の拡大など、地域にとって一定の役割を担う施設である。課題があるからこそ、予算を認めただうえで改善を強く求めていくべきと考え賛成する。

### 反対 討論

清流苑は町にとって重要な財産であり、これまで果たしてきた役割は十分理解している。また、老朽化や人材確保などの課題も認識している。しかし本予算は、まつかわの里との会計処理の不整合により実態が正確に把握できず、さらに具体的な経営改善策や数値目標も示されていない。公営企業会計移行後も赤字が続く、構造的課題があると考え。現状のままでは将来の財政負担の拡大も懸念される。今後の方向性や財政負担を明確に示す必要があることから、本予算の再検討を求め反対する。

## 【特集2】



# 育休退園

## を知っていますか？

妊娠出産は一大事です。保育する保護者の身体的精神的疲労ははかり知れません。もしその時に1～2歳年上の子ども(兄・姉)がいても、保育園で未満児保育として預かってもらえれば、保護者は安心して赤ちゃんに集中できることでしょう。

ところが、世間一般にいう「育休退園」という制度があり、下の赤ちゃんの産後3か月目には、保育園で未満児保育として預かってもらっていた年上のお兄ちゃん・お姉ちゃんは保育園から「退園」させられるのです。今の松川町ではそういう制度になっているのです。



上の子(未満児)  
保育園に



下の子を妊娠



出産



産後3ヶ月で  
上の子退園



子育てが大変

### 保護者たちの要望

2023(R5)年保護者など関係者が「新生児が満1歳になるまでの期間、未満児の兄や姉を保育園で受け入れる」ように要望する署名活動。101筆を集める。

### 議会のうごき

同年6月議会にて署名は請願として正式に提出された。審議の結果、僅差で請願は認められて行政への正式な要請となった。(当時の審議結果は議会だより160号に掲載)

### 町の対応

議会の正式な決定を受け、行政はさまざまな方法を検討した。2026(R8)年3月社会文教常任委員会にて、これまでの経過と結論を報告。大きな前進は見られなかった。

### 町の主張

町は保護者の負担軽減を重視しつつも、深刻な保育士不足や施設容量の限界により、育児休業に伴う退園期間の延長は現時点で困難である。特に安全面を最優先しており、国の基準以上に手厚い人員配置を維持することが、乳幼児突然死症候群(SIDS)対策や災害時の避難において不可欠である。安易な基準緩和は保育現場の混乱を招く恐れがあるため、個別の家庭状況に応じた柔軟な調整枠を設けることで対応したい。

施設上の定員ではなく実際に確保できている保育士の数が受け入れの限界を決定しているという厳しい実情だ。

### 課題の整理

長野県の人口は2001(H13)年がピークで以後減り続けています。その一方で女性の正社員数は着実に増加しています。女性の社会進出によって未満児保育のニーズは年々高まっているにもかかわらず、保育園は3歳以上の保育を前提に運営されている面は否めません。建物の構造や設備も同様です。深刻な労働力不足が懸念される昨今、女性の雇用は今後ますます増加するでしょう。未満児保育が特別なことではなく、標準的な保育として制度設計を見直す時期に来ているのではないのでしょうか。

# クローズアップ 町政

## 総額2億円超の重点交付金の使い道



生活応援券  
(6,650万円)



水道基本料金  
減免  
(5,390万円)



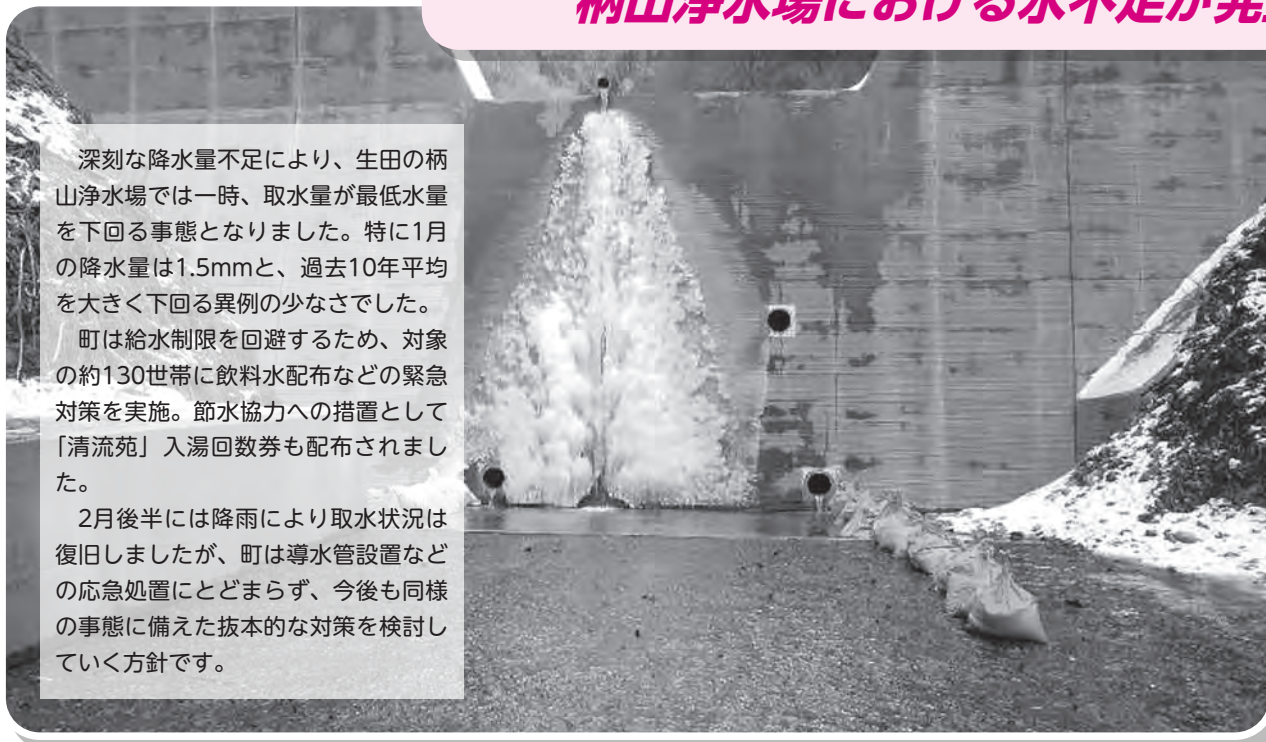
プレミアム付き商品券  
(7,000万円)



町は、国から増額された「物価高騰対応重点支援地方交付金」を活用し、総額2億318万円の支援事業を打ち出しました。

令和7年度は、全町民への「生活応援券」配布(6,650万円)、低所得世帯へのエアコン設置補助や小中学校の入学準備金などを実施し、令和8年度は、水道基本料金の6ヶ月間減免(5,390万円)、プレミアム付き商品券の発行(7,000万円)を予定しています。

## 柄山浄水場における水不足が発生



深刻な降水量不足により、生田の柄山浄水場では一時、取水量が最低水量を下回る事態となりました。特に1月の降水量は1.5mmと、過去10年平均を大きく下回る異例の少なさでした。

町は給水制限を回避するため、対象の約130世帯に飲料水配布などの緊急対策を実施。節水協力への措置として「清流苑」入湯回数券も配布されました。

2月後半には降雨により取水状況は復旧しましたが、町は導水管設置などの応急処置にとどまらず、今後も同様の事態に備えた抜本的な対策を検討していく方針です。

# 知っておきたい町の動き

行政から議会へは事業の方針や進捗など、さまざまな報告が行われています。  
その中から町の今とこれからが見える行政の動きを紹介します。

## 図書館6月休館、学習室4～10月休止



竣工から30年が経過した図書館・資料館において、長寿命化と脱炭素化を目的としたLED化及び冷暖房等改修工事(総事業費1億7,890万円)が実施されます。

改修に伴い、6月1日から30日は「全館休館」となります。また、学習室は4月1日から10月31日まで利用停止の予定ですが、代替措置として中央公民館「えみりあ」に学習スペースが確保されます。

## 青年の家、キャンプ場整備が完了

「グラウンド等リノベーション工事」が完了し、炊事棟やシャワー室、ドッグランが可能なプレミアムキャンプサイトなどが新たに完成しました。令和8年度は引き続き(一社)山村地域開発ネットワークへ管理を委託(550万円)する計画で、新設されたキャンプ場は芝の状況を整えた後、6月頃にプレオープンする予定です。青年の家は現在は複数事業者が個別に管理していますが、令和9年4月から「指定管理者制度」を導入し管理・運営を一本化することを目指しています。



【新】炊事棟、シャワー室など

青年の家本館

【新】芝生エリア

# 一目でわかる 審議結果

3月定例会

## ○賛否が分かれた議案

議案など	議員名	柳原 猛	小川 隼人	谷川 博昭	松下 正敏	紫芝 光雄	宮下 明	塩沢 貴浩	星野 光洋	米山 義盛	加賀 田亮	米山 郁子	坂本 勇治	米山 俊孝	松井 悦子	結果
●特別職の職員等の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について		○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長	○	可決 (賛成12人)
●議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について		○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長	○	可決 (賛成12人)
●令和8年度松川町信州まつかわ温泉清流苑事業会計予算について		○	×	×	○	×	×	○	○	○	○	○	○	議長	○	可決 (賛成9人)
●令和7年度松川町後期高齢者医療特別会計補正予算(第3回)について		○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	議長	○	可決 (賛成12人)

(○は賛成、×は反対、議長は採決には加わりません)

## ○全会一致で可決・同意・採択となった議案

<b>令和7年度補正予算</b>	
●一般会計補正予算(第9回)について	●国民健康保険事業特別会計補正予算(第4回)について
●介護保険事業特別会計補正予算(第4回)について	●信州まつかわ温泉清流苑事業会計補正予算(第4回)について
<b>令和8年度予算</b>	
●一般会計予算について	●国民健康保険事業特別会計予算について
●後期高齢者医療特別会計予算について	●介護保険事業特別会計予算について
●発電事業特別会計予算について	●水道事業会計予算について
●下水道事業会計予算について	
<b>令和8年度補正予算</b>	
●一般会計補正予算(第1回)について	●水道事業会計補正予算(第1回)について
●下水道事業会計補正予算(第1回)について	
<b>条例の制定・一部改正</b>	
●松川町職員定数条例の一部を改正する条例の制定について	●松川町下水道条例の一部を改正する条例の制定について
●松川町水道事業及び松川町下水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	●松川町宿泊税交付金基金条例の制定について
●松川町乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について	●松川町特定乳児等通園支援事業の運営に関する基準を定める条例の制定について
<b>契約の締結</b>	
●令和6年度農業基盤整備促進事業 福与地区管路施設工事変更請負契約の締結について	●令和6年度農業基盤整備促進事業 福与地区管理道路工事変更請負契約の締結について
●令和7年度新しい地方経済・生活環境創生交付金事業 松川青年の家グラウンド等リノベーション工事(第2期)変更請負契約の締結について	
<b>廃止・認定</b>	
●町道の廃止について	●町道の認定について
<b>計画変更</b>	
●辺地に係る総合整備計画の変更について	
<b>推薦</b>	
●人権擁護委員の候補者の推薦について	
<b>請願</b>	
●療育手帳 B2 所持者への福祉医療適用に関する請願	

# 町政を問う！ 一般質問 Q & A

一般質問は町政全般にわたって疑問点を質し、所信の表明を求め、議員自らの政策提言を行い、政治姿勢を明らかにするものです。質問の持ち時間はひとり20分ですが紙面の都合上、質問者の責任において質問と答弁を要約して掲載しております。

1	しおざわつかひろ <b>塩沢貴浩</b>	1 片桐ダムの現状と今後の方向性について 2 文化庁の補助金事業について	5	まつしたまさとし <b>松下正敏</b>	1 松川町におけるJR飯田線踏切の現状把握と、基幹道路の観点からの踏切整備の考え方について
2	よねやまいくこ <b>米山郁子</b>	1 第6次総合計画の実行と「しあわせ実感」の整合性について	6	おがわはやと <b>小川隼人</b>	1 松川町における人口減少対策に関して
3	ししばみつお <b>紫芝光雄</b>	1 松川町の姉妹都市、友好姉妹都市との小学生の交流事業について 2 病児保育施設について	7	やなぎはら たけし <b>柳原 猛</b>	1 住民の「生の声」をいかに拾い上げるか
4	みやした あきら <b>宮下 明</b>	1 町と自治会・区等の今日的な役割とそれぞれの課題に対する具体的な支援策について	8	かがたりよう <b>加賀田亮</b>	1 行政と住民の情報伝達、情報交換のあるべき姿は



砂防対策



YouTubeで視聴できます

## 問 片桐ダムの現状と今後について

**塩沢 貴浩 議員**

## 答 国や県と連携しながら対応を検討

**問** 片桐ダムの堆砂対策について現状と今後の対応は。

**答** 片桐ダムは県が管理し、貯水容量184万㎡のうち、約59万㎡の土砂が堆積している。洪水調整や上水道の取水に影響はないが、県では計画的に堆積土砂の除去を進めている。町も現状を重く受け止めており、県副知事の現地視察の際にも更なる取組を要請している。

**問** 民間業者による土砂搬出の状況は。

**答** 県では毎年約8,500㎡の土砂を除去し、近隣の公共事業に活用している。公募で民間業者に依頼し、コンクリート骨材などの建

設資材として活用している。応募は複数の地元事業者からあり、活用拡大も県と協議していく。

**問** 上流域の砂防対策や国の関与について町の見解は。

**答** 事業調整会議を通じ国・県・町で連携している。上流部の状況は国も把握しており、新たな砂防堰堤の建設も計画されている。今後も流域全体の課題とし、長期的な対策を関係機関と検討していく。

**問** 文化庁の補助金について町の認識と今後の方針は。

**答** 「子供文化芸術活動支援事業」や「伝統文化親子教室事業」について、現時点で活用実績はないが、

子どもたちが文化芸術や伝統文化に触れる機会を広げることは大変重要と認識している。今後は制度の周知や情報提供に努め、学校や文化団体が相談しやすい環境を整えながら、条件が合えば活用を検討していく。



堆積土が目立つダム湖上流



幸せ実感



YouTubeで視聴できます

米山 郁子 議員

**問 総合計画の実行と幸せ実感の整合性は**  
**答 全町民に届く幸せ実感の向上に努める**

**問** 町民意向調査の結果、本町の強みと弱点は何か。また、調査結果を予算配分や事業の継続判断に直結させる仕組みは。

**答** 強みは「地域との繋がり」、弱点は「遊び・娯楽」と分析している。WB調査は毎年実施し、その結果を自己評価と組み合わせ、次年度の予算配分や事業継続の判断材料として行政評価に反映させていく。

**問** 給食費無償化は経済的支援にはなるが、子供たちの教育投資や心身のケアに直結しているか。

**答** 個別の家計追跡は困難だが、体験活動の維持や教職員の負担軽減

による指導の充実に寄与している。今後は、国の交付金で生まれる財源を活用した新事業や、有機給食、放課後の居場所の質向上など、特色ある施策を推進する。

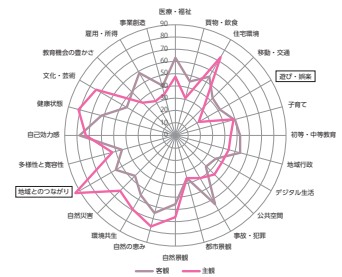
**問** 若者が定着しないのは「働きがい」や「キャリア選択」の欠如ではないか。

**答** 相談会では給与やキャリアへの不満が出ている。企業と情報共有し環境改善に繋げる。産業用地は令和7年度に土地利用構想を作成。

**問** 旧官舎リノベーションや上片桐跡地整備など、未来の町民(移住者)への投資を優先するあまり、

既存住民の生活環境改善が後回しになっていないか。

**答** 外部のためだけではなく、既存住民の暮らしを守るための投資。多世代が交流し、地域行事の担い手が増えることで、孤独・孤立を防ぎ、結果として既存住民の幸せ実感も高まると確信している。



地域幸福度 (Well-Being) 結果



交流事業



YouTubeで視聴できます

紫芝 光雄 議員

**問 蓮田市への小学生交流の目的は**  
**答 主体的な活動を促し人材を育成**

**問** 蓮田市への小学生交流の目的とその内容は。

**答** 異なる環境・文化を持つ同世代の友人と交流し、相互の親睦を図り、主体的な活動を一層促し、リーダーとなる人材を育成する。

**問** 時季は夏しかないのか。夏の埼玉は猛暑である。他の時季は考えられないのか。

**答** 学校行事や教師の負担を考えると夏休みしかない。

**問** 夏限定であれば、以前行われていた牧之原市への海体験などを考えられないか。

**答** 平成21年に財政上の理由で、牧之原市から交流中止の申し入れ

があり、協議の結果中止となった。

**問** 昨年夏以降に、飯島町と中川村の病児保育施設と委託契約が結ばれ、飯田市の施設より利用が増えている。近くにあることが利用に繋がる。町内設置に向けてその後の動きは。

**答** 中川村の施設の例で医者が常駐でなくても病児保育施設ができている。このことは設置に向けてハードルが下がったと思われる。町内または北部ブロックに1か所設置ができれば良いと思うが、具体的には進んでいない。



町内でも病児保育整備は進むか



自治組織



YouTubeで視聴できます

宮下 明 議員

問 自治会・区に対する支援策は

答 条例・交付金の見直しを検討する

**問** 自治会や区会は防災・福祉・環境整備など地域コミュニティの基盤づくりを担うとともに、行政と住民をつなぐ重要な役割を果たしている。町の認識は。

**答** 重要なパートナーであり、地域の自治が持続可能であることが住民の幸せ実感の土台である、と認識している。

**問** 現状と課題、その要因は何か。

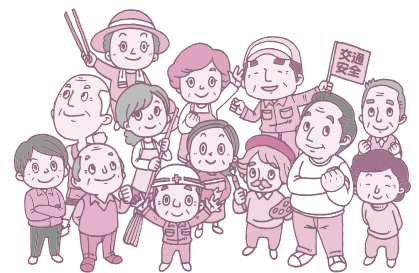
**答** 未加入世帯の増加や担い手不足、高齢化などにより、全町の加入率は令和3年度71%から令和7年度65%に低下し、その結果、防災や見守り、環境維持など地域の自治機能の低下が大きな課題と認

識している。要因は、生活様式の変化や価値観の多様化、地域に対する関心の低下、忙しいなどに加え、個々にコミュニティがあり「加入しなくても困らない、加入メリットがない」という意識の広がりがある。

**問** 今後の支援策として、未加入世帯や高齢者世帯など会費免除世帯の増加による自治会・区会の収入減に対する見直しや強制力はないものの、町の姿勢を明確に示す自治会加入促進条例の制定についての考えは。

**答** 地域課題の解決のため6人の集落支援員を区に配置し事務補助

や見守り、防犯活動などを通じた負担軽減を進めている。この制度は自治会への配置も制度上可能である。財政面の見直しは前向きに検討し、条例の制定についても他自治体の事例を参考に調査・研究し、今後の方向性を検討したい。



“自治”ってなに？



踏切拡幅



YouTubeで視聴できます

松下 正敏 議員

問 JR飯田線踏切の幅員拡幅を提案

答 踏切拡幅の問題は重要な課題である

**問** 町内のJR飯田線踏切には、幅員が狭く、車のすれ違いが困難な箇所が多い。町は踏切の数や位置、危険性をどのように把握し、どのような課題認識を持っているのか。

**答** 町内の踏切は16か所あると把握しており、位置や道路管理区分などの基本的な状況は確認している。また、幅員が狭く、車のすれ違いが困難な踏切があることも認識しており、今後は個々の利用実態や危険性についても、さらに丁寧把握していく考えはある。

**問** すべての踏切を拡幅することは難しいため、基幹道路を明確に

し、優先順位を付けて重点的に整備を進めるべきではないか。道路整備計画をどのように位置付けていくのか。

**答** 現時点では、踏切拡幅を道路整備計画の中に体系的に位置付けた計画はない。しかし、必要な箇所があることは認識しており、今後は町内の幹線道路整備や地域の交通・防災の観点も踏まえながら、優先順位を整理し、関係機関と調整しつつ検討を進めていく。

**問** 昨年、1か所の踏切撤去が決まったことも踏まえ、利用の少ない踏切の整理・統合を交渉材料にしながら、必要な踏切の拡幅整備

をJRと進める考えがあるか。

**答** 町としては、利用実態の少ない踏切について、整理や統合の可能性も含めて今後検討していく考えはある。その上で、必要な踏切の拡幅については、JRや県など関係機関と協議を進め、前後の道路整備との一体的な視点も持ちながら、安全性と利便性の向上に向けて対応していきたい。



車のすれ違いができない踏切



人口対策



YouTubeで視聴できます

## 問 人口減少をどう乗り越えるか

小川 隼人 議員

## 答 先進的な取組をしっかりと進める

**問** 英語教育や有機給食などの強みを、子育て環境と一体で発信し「選ばれる理由」を明確にする考えは。

**答** 英語教育など特色ある取組を進めており、地域全体で子どもを育む環境や切れ目のない支援も強みと捉えている。今後は実践や成果を整理し、子育て世代や移住検討者を意識した効果的な発信につなげていく。

**問** 旧上片桐専用側線跡地を人口増対策の中でどのように位置づけるか。

**答** 子育て支援センターから高校までが揃う地域特性を活かしたエ

リア形成を進めたい。その中心を上片桐専用側線跡地とし、住宅整備も含め、教育・子育て・居住を連動させた面的なまちづくりとして位置付け、既存町民にとっても有意義な場所として移住定住の促進にもつなげていく。

**問** 関係人口や町出身者とのつながりを活かし、都市部での発信を強化する考えは。

**答** 移住セミナー中心の手法から転換し、常設拠点による継続的な情報発信と相談体制の構築を検討している。関係人口や町出身者との接点を広げる場として活用し、外部PRも組み合わせながら、令

和8年度中の具体化を目指す。

**意見** 人口減少という課題に対し、守りにとどまらず教育・子育て・発信を連動させた「人口増対策」という攻めの視点が重要である。松川町が選ばれる町となるため、戦略的かつ一体的な取り組みを求めたい。

R4年	-132	12,338人
R5年	-58	12,280人
R6年	-82	12,198人
R7年	-217	11,981人
R8年	-144	11,837人

過去5年の1月1日時点の人口推移



広聴



YouTubeで視聴できます

## 問 住民の声をいかに拾い上げるか

柳原 猛 議員

## 答 数字で傾向を掴み、対話で深める

**問** 第6次総合計画のウェルビーイング指標は重要だが、住民の生活実感や困りごとなど「生の声」の収集・分析をどう考えているか。

**答** 指標導入の目的は、生の声を施策に肉付けするサイクルの構築にある。調査で全体の傾向を把握しつつ、そこから漏れる個別の事情や深い思いは、直接対話や現場での気づきで補完していく。

**問** こども計画策定時のアンケートにおいて、小中学生(644人対象)の回答が64件であったのはこどもの声を聞けているといえるのか。

**答** タブレットでの回答を導入したが、設問数が多すぎたことが反

省点である。今後は、ワークショップなどの直接対話や、回答しやすい環境整備など手法を見直したい。

**問** 同アンケートで若者(15~29歳)の調査対象が300人に限定されている。またウェルビーイング調査では18歳以上が対象となっており、高校生をはじめとした若者世代の意見収集が不十分ではないか。

**答** 若者世代への直接対話や手法の検討は重要であり、今後は対象拡大や手法の工夫を参考にしたい。

**問** LINEによる公園や道路の損傷、不法投棄の通報・報告ができる自治体が増えているが、松川町での取り組み状況は。

**答** 現在は電話や窓口対応が主であり、夜間・休日の受付方法は限定的である。LINEなどのデジタルツールを用いた通報・報告システムの導入は前向きに検討したい。



LINEなどのデジタル活用に期待



情報政策



YouTubeで視聴できます

**問** 積極的情報投資がまちの活力になる

**答** 挑戦したいが現体制人員では難しい

**問** 行政から住民へ向けた情報伝達の問題点は。

**答** 自治会加入率は約65%であり、35%の未加入者に広報が届かない。LINE加入者は約2500件で全住民を網羅していない。新年度下半期からポスティングなどを検討している。

**問** 行政発信情報は住民の8割、9割に届くようにすべきだ。情報弱者でも使えるICTを活用した仕組みを導入すべきでは。LINEに代わる町独自の情報アプリ開発、QRコードによる住民識別IDカードの発行などにより、現状のシステム利用料や郵送料などのコ

ストは大幅に削減できる。

**答** その提案が実現できれば全国的にも先進的な事例になり得ると考える。しかし、実行や開発の難易度が高く一歩前に進めていないのが現状だ。

**問** 住民識別IDと町独自の情報アプリを組み合わせると、いろいろな応用が期待できる。災害時の安否確認などにはまさに大きな力を発揮するはずだが。

**答** 安否確認の現状は自治会を通じたアナログ方式で、未加入者の課題が大きい。システムの導入も研究しているが、専門的であり職員も苦戦している。

**問** このシステムでは、住民同士の情報交換ツールにもなる。趣味の仲間集めやペットの里親探しなどを行政が運営するシステム上で安心して安全に使うことができる。住民間で活発な情報交換が行われる賑やかで活気のあるまちづくりの一助になるのでは。

**答** 今後の検討素材とし協議したい。



使い方次第で社会が変わる

みんながわかる!

**町議会** その4 議会での質問

議員が行う「質問の種類」と松川町議会ならではの「質問のルール」を解説します。



議場で行われる質問は主に2種類

① 質疑

予算案や条例案に対し、不明点や根拠などをチェックします。

② 一般質問

町政全般について議員が提案や確認を行います。

行政から提示された予算や条例案	対象	町政全般から議員が選ぶ
不明点や不備をチェック	目的	議員独自の視点で改善を促す
行政からの説明に対して1回の質問あたり3問かつ3往復まで行える。	方法	事前に質問書を提出した上で1問1答方式で行う。議員の発言時間は20分まで。

知っておきたい質問のルール

質疑は3往復まで

本会議の質疑は、限られた時間を効率的に使うために「1回の質問につき3問で質疑応答を3往復まで」というルールがあります。

自分の担当分野は委員会でじっくり

議員は2つの委員会のいずれかに所属します。担当分野は後日の委員会で精査するため、最初の本会議(総括質疑)では、担当分野についての質問は控えることになっています。

<b>広報部</b>	(部長) 星野 光洋 (副部長) 小川 隼人/柳原 猛 (部員) 坂本 勇治/加賀田 亮/宮下 明/松下 正敏
<b>(編集委員会)</b>	3月議会において町長は「次年度は今まで準備をしてきた大きな事業に取りかかる」ということを話しました。議員として町政の動きをみるなかで、大きな事業は様々な調整を経た上で成せることだと感じています。ただそれが住民の意に沿ったものであるかを注視するのが私どもの役割であるとも考えています。
<b>あとがき</b>	

## 名子地区公民館のみなさん

「新しい地域づくりのアプローチ」と題して2月に行われた公民館研究集会。そこで名子地区公民館のみなさんが「やっちゃえ！中学生と公民館活動」と題してブースセッションを行っていました。「中学生は地区活動に無関心では…」という思い込みをくつがえす興味深い内容でしたので、名子地区公民館役員のみなさんにお話をうかがいました。

### ★中学生が公民館の活動に関わるようになったきっかけは。

コロナ明け以降なかなか人が集まらず、慢性的な部員不足に悩まされていたことが背景にあります。そんな時、児童や生徒と繋がりがある今の館長が、中学生のボランティア活動(ニコボラ)へ声をかけたのがきっかけです。実は中学生側も「町のために貢献したい」という思いを持っていたようで、公民館側の助けてほしいという思いと上手くマッチングしました。

### ★主に名子地区の中学生が参加されているんですか。

他の地区からも参加してくれています。年間を通じて、歩け歩け大会で振る舞うカレーの準備やイルミネーションの片付け、夏祭り、演芸会などの事業に参加してくれており、1回平均で10人から12人ほどが集まります。一度参加して楽しかったからと、リピーターになってくれる子も多いですね。

### ★中学生の活動の様子はいかがですか。

中学生は大人と同じくらいしっかり動いてくれるので、本当に助かっています。例えば大人でも大変なイルミネーションの片付け作業にも大勢集まってくれました。彼らは色々なことをやってみようという意欲が旺盛なので、一緒に作業しながら教え方を工夫するなど、大人側にとっても良い勉強になっています。最初は「休みの日に中学生がボランティアに出たがるわけがない」と大人が勝手に思い込んでいたのですが、彼らが地域のために役立ちたいと思ってくれていることに驚かされました。



岡村嘉信さん 松川進さん 堀田春樹さん 岡村伸太さん

### ★参加してみて中学生からどんな声を聞きますか。

「楽しい」と言って最後まで取り組んでくれています。家に帰ってからも楽しかったと話してくれているようで、家族のコミュニケーションのきっかけにもなっていると聞いています。また、「次は何があるの?」と自ら聞いてきてくれたり、同級生を誘って一緒に参加してくれたりして、仲間同士の輪も広がっています。中学生と部員と一緒に汗を流したり、会場の雰囲気と共に楽しんだりすることが、彼らの満足感に繋がっているのだと思います。

### ★初めて参加する中学生を受け入れる際などに、気を付けているポイントはありますか?

安全面には特に気を配っていますが、細かく指示を出しすぎることはしていません。やるべきことを説明すれば、あとは中学生同士で教え合ったり注意し合ったりしながら、しっかり作業してくれます。大人は広い心で見守りつつ、一人になっている子がいたら声をかけて一緒に作業するなど、地域の一員として接することを心がけています。色々な子どもたちを温かく受け入れたいという思いがあります。

### ★素晴らしいですね。今後の活動の予定は。

ぜひ継続していきたいと思っています。今後は館長からの声掛けに頼るだけでなく、私たち部員から直接中学生に声掛けできる体制を作っていく必要があると考えています。自治会の活動についても、大人が「来ないだろう」と勝手に思い込まずにボランティアを募ってみれば、子どもたちの好奇心と上手くマッチして参加してくれる可能性は十分にあると思います。